



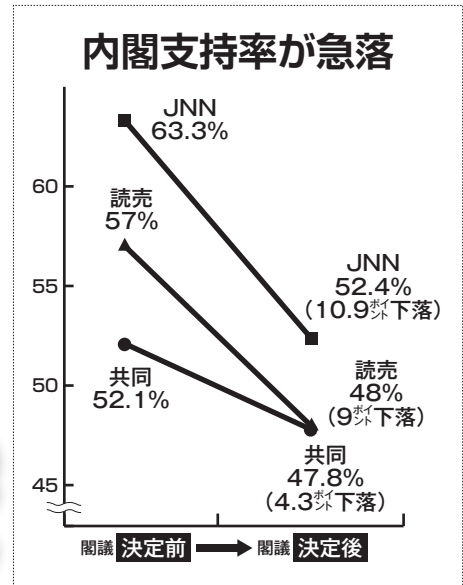
高島市・あいは野演習場での都市型訓練施設を使った訓練(2009年2月、日米合同演習) // 滋賀民報社提供

集団的自衛権「閣議決定」

戦争か平和か 歴史的岐路



世論 激変



空前のたたかひを広げ、軍国主義復活ストップ  
 解釈で9条こわすな

自衛隊が「戦地派兵」されれば 必ず攻撃の対象に

閣議決定は、これまで「戦闘地域」とされてきた場所でも支援活動ができるとしています。アフガン戦争で「集団的自衛権」を行使し、「戦闘地域」で活動したNATO諸国は1031人というおびただしい犠牲者を出しました。

「限定的」どころか政権の判断でどこまでも広がる

政府は「限定的」といいますが、時の政権の一存で海外での武力行使がどこまでも広がり、戦争の泥沼に陥ることになってしまいます。

戦後日本のあり方を否定 「殺し殺される国」にしているのか

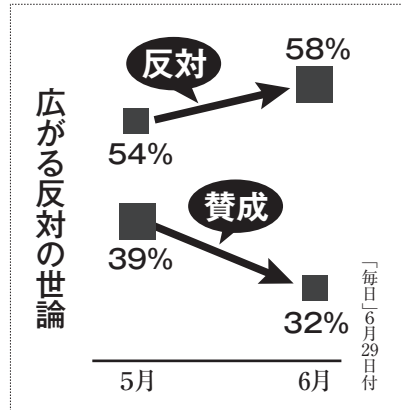
集団的自衛権の行使容認とは、日本の国や国民を守ることでなく、米国の戦争のために日本の若者が血を流すこと、他国の人に銃を向けることが本性です。日本が失うものは計り知れません。

「戦闘地域に行かない」の歯止めはずす

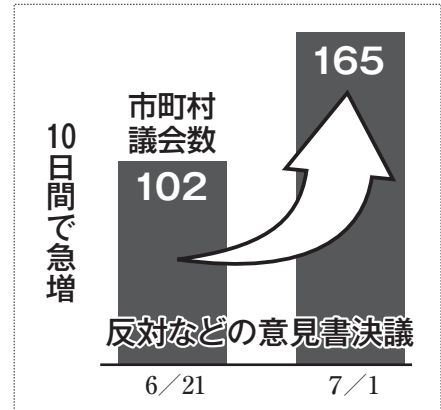
「新3要件」他国のために武力行使する

米国の戦争で日本の若者が血を流す

安倍政権の「閣議決定」強行で



集団的自衛権の行使容認



元公明党副委員長が批判

二見伸明氏 (安倍氏のやり方に) してきました。…いま『歯止めをかけた』などと支持者を説得している(公明党の賛成について)「私がいた公明党は『平和の党』と言っ

てきました。…いま『歯止めをかけた』などと支持者を説得しているけど、まったく説明になっていませんね」(「しんぶん赤旗」日曜版6日付)